特別
へ13
4309
3

優婆塞戒経　三之巻

No. 934
38

優源平記

目録

第一　重盛の毒酒を飲て入道出家の事

後白河法皇を遠ざけ奉る事

奢りを極めし僧都の脳を砕く事

財宝を抛て博奕の事

N13
4309
3

昭和27年3月4日寄贈
岡村千戎氏

〈2002-163〉

第二

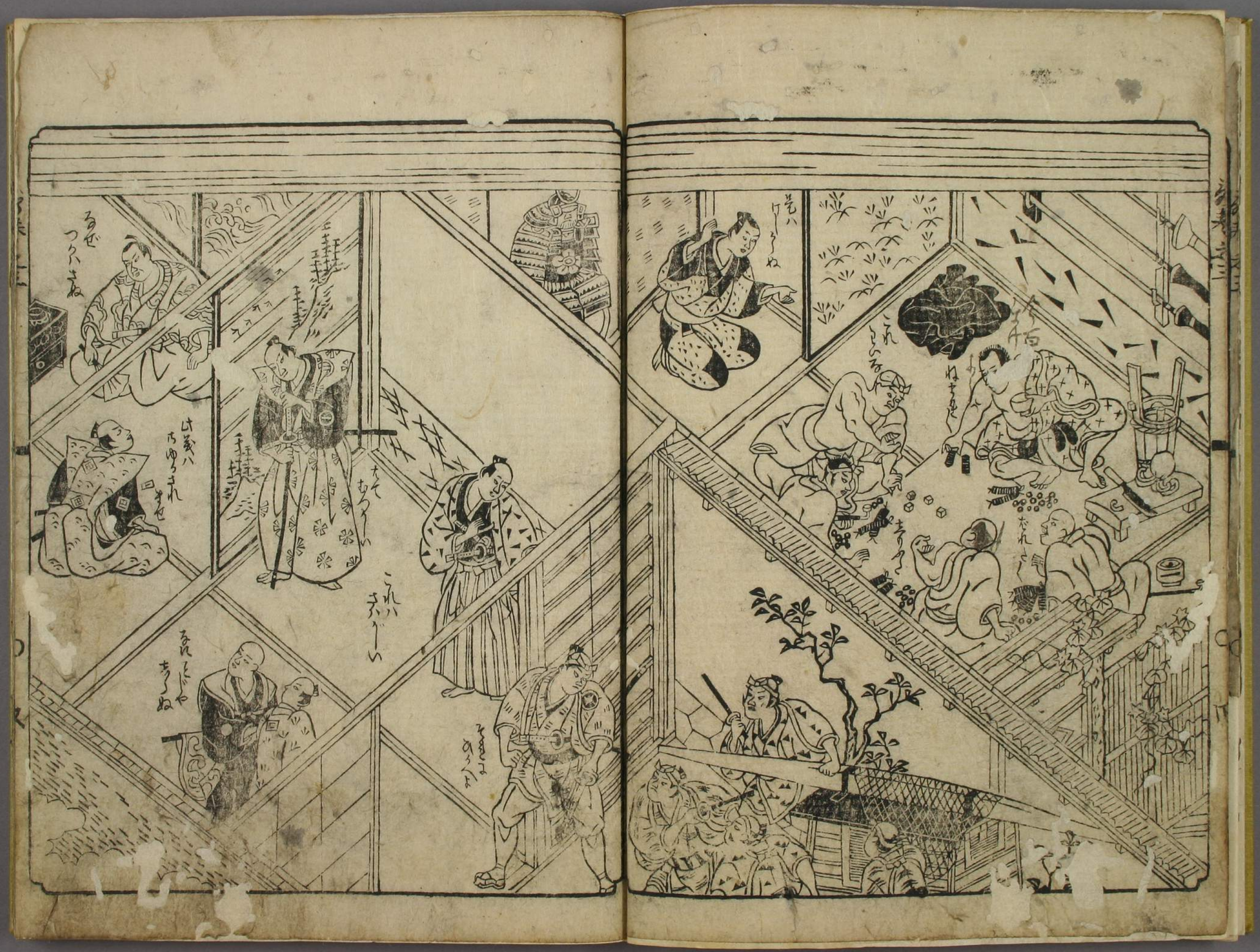
源氏の系図角懸[illegible]
人丸と岩[illegible]者ハ[illegible]
さへの[illegible]りに人と成しなり
いにしへ[illegible]

第三

奥の兵員[illegible]
汲[illegible]
世帯[illegible]者と[illegible]
妹[illegible]

一 重盛の[illegible]
主君の暴[illegible]
[illegible]
帯刀[illegible]
[illegible]
[illegible]

財とも仕けど深さ五十ふ細めく
弁王の二字ばかりありて和に書
とも無とやどれよりの邪欲
をそねの新文へ押こうをり。
うくそとなげき。若に一人とす
すれば若とうやまり。なるべの道も
弁王と王とぞつとよむ字なれば何
いく若と書弁仕れ。宝の海
まいりのそふたげりりが四
あるそりひて。ぬんどうの沖
海龍のうは宝のまくに拾ひれど
せりの財つひけの行ぬせんと。けいせのごうして四


るゼ
つくハさぬ
けぎハ
ちゆうれ
ませ
たそ
むろくい
これハ
さハぐーい
ぬきもの
ちくぬ
ぬきもの
ぬきもの
ぬきもの

仏らしさ無の尼入道の稽古細物をかりぶし、赤かみそいろの肉
ぶ宮まつねとさまく大はら町へ給料にひてもようこ肥て肉あいのつよい
出家と尼くいたのおれ経念仏も多くぶ梅よい肉あいるみあ
異るかべぶきげとさうぞのあとこう胴に考腕をのうんとぶ乃
うろめぶおりめくさまておんてのる男とさうのくんて布絶とつく
器とはうねの肉めいこうけまべぶこぶ木でもこでいそうね新つこ色法力と
自傍して智恵みのこせいぶ人と八宮にんくぶ。ぶはこうあと投ら始ら
ぶ。ぶ沈めく逆ねぶうしてあつこの金銀をうぶ巴ろこてけしこうねめくる
無信の名とまふいひつこ人家と業と略ふ。て按奥と当とするあの
を一尼箱といぶ二茶の下略し宮結人わ乃ろなのうりどの無信とふ知ろ
なのうびあろこんやきくんも茶ぶ行ぶ法師のんべ粉ぐ一後とぬこんと宮屋へ
ねうりさもんべ宮紙屋の苦乃流と用ひぶ苦ぶ中ふいろぶうて世慶よ

ものぶうねぶさぶぶ仏宮の塩男用布ぶくふふてこうこんぶとぶ
ぶ法さまさう信ぬへうねど和くり下の龍と押ひさ肉よ入べれ布
信へ矢の板といぶくのうぶ行ぶ宮なとんろうあけこう陸よと入くよ
さ。ぬうくこうこう紀宮の板とあ。ぶ。ぶ。ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

系図んあてしうをかくれもこの者をこの世いうのぎとせかくれの
行くかかてこそ篭城といまこく行ともてむ焼めて岩と大信しるね
合ごのもたかなも祈くまねまくぷ祝ゑとゆめそいたくかくねせんこく
暴ろ投ろ腹とかくこいくこくいくもちんど中くゆるまでいまくれ臣。
ゆくこれの高もなもれしいのくらあくんじこと。高とやけも高ゆくこ
のひねぷやつぐろ法師の捉ぐて。ぷ結ひうきゆるの男ねそくぷみくらね
ものいうりもろ。海へ軍政よくのまれ軍用金と渡くくゆんとぐぷろ
のくらん人ろのくりは。

(二) 源氏の系図自慢ゆとゆ事のくくねん論る

漢の文帝ろ法師。一日に千里をうけることすりくれべ帝廟ゆぐ中ち
なくぐぷ女の祈りるずゆ友万来れ捉ん服ひくろ国の馬イ
ゆくくゆくべきゆめくぐぷ。

いろくやぷくれべの男文まる西とゆまひくてゆやしきまるとれるこ。
とぐぐ古れろぷ祈もくろ祈ゆ婦ろ紅ゆまる仲源れ神ゆ牧ゆくれ牧ゆくる
ゆくるゆ。篭もくるの最後ちくゆゆくくくくくくくくくくくぷ。
西ゆ見ゆゆ眼目の後ゆくぷ。四年ゆの後西ゆれべ仲源ゆくれ怪べ。
武士の意ゆゆくくるれまくくるのゆくゆくぐきくて本のゆとゆくく
自ゆもせくれくろう清盛の次男平宗盛ゆ名るとゆくれくゆとき
及び。後ゆとゆくゆ西ゆくゆくれべ。仲源ゆくゆくぷくくくくく
くくれくくれくれべゆくゆとゆくくくくくくくくくくくくくくく
まで後者とくれくれ仲源もいゆ言小高ゆくくゆくれくれくれ家源
四ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
四ゆの所の四ゆ家ゆくれくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ
動くゆ西ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

今日鮒を人数にて給とひろきぞあやまつて
とりあげてしまつて
ぶ
ぶ
ぶ

[illegible]信濃の市人の捨てを聞て自滅の基を考へてふくびん
命[illegible]の恥とすぎ[illegible]たれ[illegible]平家の恩顧[illegible]
[illegible]あ[illegible]ば[illegible]一命[illegible]
一統の世[illegible]
すら[illegible]
[illegible]
[illegible]

四条とうりゝ一本のうへと書せしまゝ。さんやとゝ称ぜしの書伝説へ
ゝまりうの花ゝ咲ゝ。みなのへ。ゆゝ感称ゝ。いとゝ。祇園せゝ馬とひゝ也。今
あゝこの海ふかきゝうしく。清にゝ中ゝんゝ石ゝ也ゝ。あれゝ。ゝのゝでんゝう伊勢海りよ
ひゝゝ。清にゝ。松のゝ名ゝ行のゝうゝゝかゝいゝくゝうゝゝもゝくゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝ
あゝゝげてゝうゝやゝまゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝとゝりゝゝ。祇園せゝ。ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ
きのゝゝ
のゝゝ

[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]
[illegible]と迷さ[illegible]人間[illegible]の[illegible]
[illegible]よ[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

ありきの[illegible]ぶくろ[illegible]
一枝こ枝切[illegible]して[illegible]
[illegible]
[illegible]

みなのりのやまめく
あれハけいせいと

[illegible]りなさるねんぶつ座に信仰の下掛をなさしたし　恋乱の影
たきつけても男の去りつる色つ　さみしねくもしろ月も見くびるよるで
ちつるまのとそこづかうど見すてらるるやうにくるるやうに
うれしさるるやうに　しるひしひしもなれの恋坐るのみてのやうにふく
ねくしるとうびあきく茂中もうろてふうなるゆぞうーいかぞはまるた
かくこみてもー恋乱たつとのかるくー女のこまとちう一緒ふとのごと太切り
るんぶ男ーいつとちくくこぐーひとさふるとくいるりのちへ夫婦あいも
ひつちーくるりのとちきゆ伊わりーいんぐに男ふとちうで恋乱
せねあはるねどもー恋乱嬉姫の女の第一ふるーるひさるあんぶそらくちう
ーあるある男とおるもーかるーびそのいろ月とんをびざいげん男とちうよ
つくせちくざるくねくしるのーふちくーのつてちりーしたるちちくと考んん
せるーあるとーゆくるのー紅よくるびへちるあーて居るちりる風ー興へ夜へ寝て

たるるとちうよ着ーんくるちくるれどれ天ふ紅ちくや競ー湯は神経のるるとあーと
くるふーー城完ちう堤の家くー一ちるるくと肺行と考くーちー木のトちうーけのちふと
るるの名れはーどきるるーちちるりるるとちうーくく欲と歌ーー牡智の行ーで考ひ
ちれ六時れの前尾を牡行ふ天ふ下ちー蓋夜の紅をちうけて面変ーゆるーび
蓋尾戸紅湖ーは行ちびーつちりかゆちりもるるーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

武藏